

山下惣一『振り返れば未来』 農民にたくさんの勇気を与える

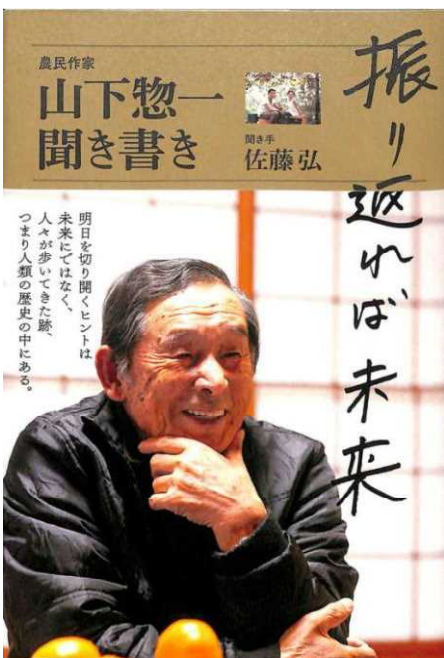
農民作家・山下惣一さんが昨年（2022年）7月10日、86歳で亡くなりました。

『振り返れば未来』山下惣一聞き書き 佐藤弘著（465頁・不知火書房・税込2200円）は、農民にたくさんの勇気を与えるすばらしい本です。

成長ではない

農の原理は循環であって、成長じゃない。百姓ってのは借金さえしなければ、成長しなくても生きていけるんです。

農業とは本来、常に未来のために汗を流す、夢を育てる仕事。だから明日を信じ、木を植える。父に限らず、おそらく一時代前まで日本の百姓の思想、生き方はそのようなものであったでしょう。その遺産の上に私たちは生きています。



時代がどう変わろうと、日本の国土や原風景が守られているのは農村の「農夫也（のぶや）」たちが頑張っているからである……。

土に根を張る

「やる気のある農家に重点配分」なんて言い方は、特に気に入りません。やる気なんて人の心の問題ですから、1日に何回も入れ替わりますよ……

行政が言う「やる気」とは、設備投資して規模拡大するという意味でしかない。

計画段階ではバラ色の未来が描かれているけれど、現実にはやる気を持って、あるいは持たされて大規模化したために、四苦八苦している例がごろごろしているじゃないですか。生きるためにカネは必要だけれど、それを目的に生きているわけ

じゃない。

ふるさとの土に根を張り、代々そこで生きて幸せに暮らしていく、規模の大小とかに関係なく、そんな意識を持ち、暮らしを目的として農業を営む人たちを、私たちはあえて「百姓」と呼ぶんです。

批判的に考える

誤解といえば、「農業は過保護」というのが私たち百姓にとって一番アタマにくる言葉。

それほど農業が手厚く保護されているというのなら、保護される側から保護されない側へと雪崩を打って移っていったのはなぜですか？なぜ後継者がおらず、農業をやる人が減るんですか？

グローバルゼーションが進み、食糧だけ一國主義で考えるのは無意味だという意見もありますが、これも間違い……

基本的に、自分の手の届くところに常時なれば困るといのが、食べものと工業製品などとの違いなんです。いざというとき、自国民にひもじい思いを

村の四季

31

鈴木重雄（八色木）

語り継ぐ戦時体験①

平成18年6月、八色

木の山口千代美さんが、東田川文化記念館を会場に、絵手紙の個展を開いた。

絵手紙の魅力と、今忘れようとしている「私の戦時体験」に心引かれた人も多かったと思う。

子どもや孫たちへ

山口千代美（昭和7年・新潟県生まれ）

私たちの小学校の頃は、戦争が始まり、戦争の苦しみを正面から受けた世代とっております。

生活物資がだんだん不足してきました。「代用品」が生活の中に取り入れられて、なんでも兵隊さんのためだと言って、金属製品が回収されました。火鉢、アイロン、ストーブ、鉄瓶、ゴトクの果てまで、鉄で作ったものは強制的に没収されました。

食料品も手に入らなく、砂糖はサッカリン、ズルチンなど人工甘味料でした。田んぼを作っても、飯米まで供出され……（中略）・私たち子ども4人をどうして育て

ていけばよいのかと、母は陰で涙を流していました。

物々交換した卵1個に醤油を入れ、ご飯にかけて食べたおいしさは未だに忘れません。

「欲しがりません勝つまでは」と毎日お腹をすかす日々でした。生味噌をぬりつけて、乾燥した木の葉に包んで学校へ、お腹がペコペコだから本当にうまかった。

母の着物が、活動着やモンペ、防空頭巾、救急袋になって、身を守りました。

日に日に戦争が激しくなり、空襲に備えて明かりが漏れないように、電球に黒い布をかけて寝た。私の生まれの所は新潟県の田舎です。B29爆撃機が頭上を飛んでいきました。日本は戦争に負けたのです。

「欲しがりません勝つまでは」「ぜいたくは敵」と言った子どもの頃を語り、命の尊さと、我慢に耐えることを、子どもに分かれればと願っております。

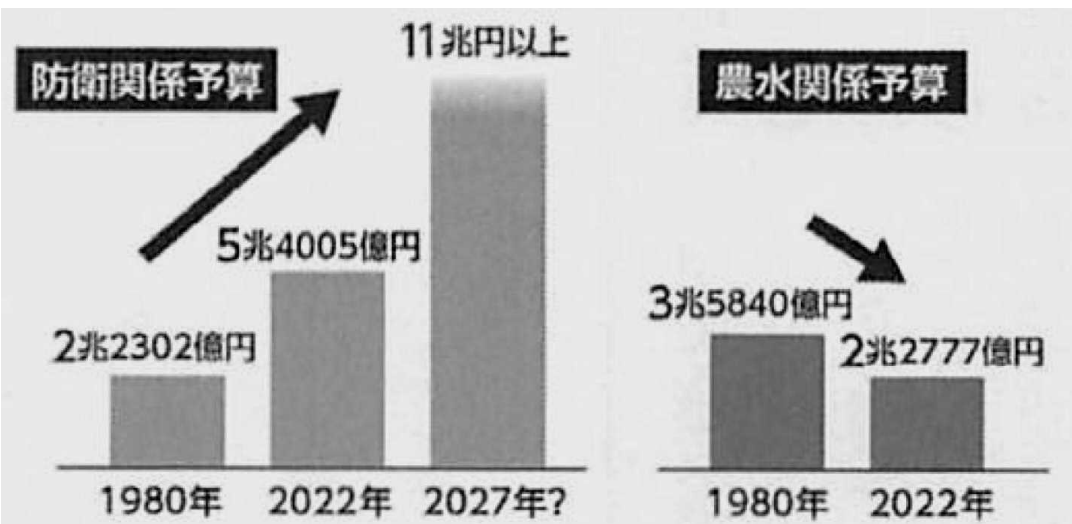
平和は祈ったり願うものではなく、人間が作るものだと思います。条件によって成立するから農家一戸一戸が特殊。だからこそ、自分の足元をしっかりと見据えて、そこからスタートする姿勢が求められます。（以上抜粋）

1980年代は農業予算が3兆5千億円、防衛予算が2兆2千億円

第211通常国会が23日開会され、岸田文雄首相は施政方針演説で、大軍拡を断行する「戦争国家づくり」と大増税を進める姿勢を示しました。

「安保3文書」を閣議決定し、敵基地攻撃能力の保有や、5年間で軍事費を43兆円にするともんでもない計画で

40年前は農業予算が防衛予算より上だった



す。

軍備より農業を

日本の食料自給率は37〜38%です。

「食料自給できない国を想像できるか？それは国際的圧力と危険にさらされている国だ。」(ブッシュ元大統領の2006年の一般教書演説から)。

戦争がいったん始まれば、食糧とエネルギーの輸入は止まってしまいます。

「攻められたらどうする」ではなく、「戦争にしないためにどうするかを考えるべきです。」

日本政府はこの40年間、防衛費を倍増させ、農業予算は1兆円以上も削減してきました(上図)。

軍備より農業こそ大切ではありませんか？

製本の中味は、「日本共産党は本年七月を以って創立満十周年を迎える。吾党は此の際全日本の労働者勤労農民並びに同情者諸君の前に血で綴られた吾等の闘争史を送る」ではじまる序をもったものであった。

この党史は、「…現に獄中であつてブルジョア地主的天皇制の狂暴なテロルと勇敢に闘いつつある同志市川正一の公判廷に於ける陳述を基礎として、吾部が1932年7月10

発行された。

俊太郎の小冊子「釣り之友」には背文字はなかったもので、1940年2月の検挙にともなう家宅捜査の難をのがれたのであろう。

また小冊子が何年につくられたかは不明だが、少なくとも、「10年党史」発行された1932年7月10日以降である。



市川正一

用期間の延長と新設を許す話。敵基地攻撃とていい、国会にかけないのでは、デタラメというより独裁でしょ。あなた・許せる？

▲首相が出した「政治資金収支報告書」に宛名のない領収書が、100枚近く付いていたというデタラメはどうなったのだろうか。

▲政治資金規正法違反の疑いで刑事告発された高市経済安保相。その問題の証拠である領収書がすり替えられた。というデタラメは、証拠隠滅という犯罪でしようや。そんな事を許した担当者も犯罪者でしょ。よくやるよ。

▲イヤ〜ビツクリなのは、国民年金を750万円も未納している選良が居たんダト。彼・俺達よりは金持ちだと思ふヨ。そんな金を、行政は指を咥えて見ていたのか？なぜか日本、こんな人でも立候補できるんだナ。(石川)

ひと

村山俊太郎・ひで夫妻

青山 崇

俊太郎と日本共産党④教労結成とその後 結成大会は欠席2名で7名の参加であった。

名称は後に訂正されたもので、全協日本一般使用人教育労働部山形県支部(教労山形)である。

教育労働者諸君！で始まる宣言。1、ニュース発行万歳！を、冒

頭に11の大会スローガン。役員は常任執行委員長・武田竹男、執行委員・柴田秀雄・太田五郎(庄内)・高橋幸蔵・村山俊太郎で、他にもいたようである。

『著作集』のこの部分は、「以下原稿紛失」となっている。ひで夫人によると、俊太郎がペンで「釣り之友」と書かれた自家

デタラメだ



きびちよ

各々の感じ方や許容範囲はあるでしょうが、世の中デタラメが多すぎませんか。絶対に許されないのが、プーチンのウクライナへの戦争というデタラメだが。

▲ロシアとウクライナへ各陣営から兵器が。これ、ウクライナを戦場にした世界戦争といえませんか。国連の事務総長と一緒に、主要国の首脳でプーチンが手を引くと言うまで集団交渉なんて…。

▲首相が買うと言ったトマホークは、戦争の道具でしょ。「いずも」だって戦争の道具なんだが、これを空母に作り変えているんだろ？共に憲法が禁じている戦力だろうが。危機を煽りながら、金もないのにデタラメをやっているんだ・自公は。

▲億を超える政治献金で動いたか。原発の運